

## はあちゅうさんインタビュー

ライター：濱田真優、石川のどか、金久保建 エディター：野口萌

慶應義塾大学在学中にブログを使って、女子大生カリスマブロガーとして一躍有名人となった「はあちゅう」こと伊藤春香さん(29)。自ら企業をスポンサーにつけて「世界一周」を実現したことで知られている。その他にも執筆や講演など幅広く活動をされ、卒業後は電通に就職、その後転職しトレンダーズを経て、現在作家としてフリーで様々な分野で活躍中だ。朝の情報番組「スッキリ」の火曜日コメンテーターも務められている。今回、著書「半径 5 メートルの野望」の内容にも触れながら、自身の学生時代のことや現役の大学生に向けてのお話を伺った。

Q. 学生時代に特に印象に残っていること、やっておいてよかったことは何ですか？

やっぱり、1 番はブログです。大学 1 年生だった 2004 年に始めて、今も続いているのですが、当時はまだまだブログが浸透しておらず、今のようにスマートフォンもない時期でした。友人も「ブログって?」という反応でした。始めたきっかけは、当時親しくしていた先輩に勧められたことでした。著書でも書いたのですが、寄生虫方式をそのころから実践していました。(寄生虫方式とはこうなりたいという人のそばにいて、観察し、学んで、真似て成長につなげること。「半径 5 メートルの野望」参照)実は、これは雑誌を見てモデルさんのメイクの仕方をまねることと同じで、私たちも普段やっていることの延長です。

Q. ご自身が経験されたことの中で、今の学生にもやっておくことをお勧めすることはありますか？

「深く考えること」ですね。人は同じ体験をしても、物事についてどれくらい深く考えるかは人によって違います。物事を深く考えることで、見えてくるものがあると思います。例えば紅茶を買って、その商品にはフェアトレードの表示があつてそれに興味を持ったら、生産国を訪れるということも、深く考えればあり得る話です。私は、ブログの更新を通して、インプットしたものを整理して、アウトプットすることで「深く考えること」に繋げることが出来たのでとても良かったです。また、自分の記憶にも定着しますし、人に整理して話せるようになるという意味でもブログを書くことは、良かったですね。

Q. 著書で特に学生へ心に留めてほしいことは何ですか？

大学生は何をしてもいいと思っています。しかし、大事なことは何をするかではなく経験したことから何を吸収するか、何を考えるかということです。吸収力、そしてそこから生

まれる行動力が大事になってくると思います。失うものは何もないのだから、色んなことをやってから考えることです。行動をおこしていないのに、批評家を気取ってものを言うのは格好悪いと思いますね。私は学生の頃に、たくさんの社会人と会うことで、フラットに物事を見ることができるようになったと思います。

**Q.**最後に塾生へのメッセージをお願いします。

慶應生は面白い人が多いですね。地方出身の人、帰国生の人、すごいお金持ちの人、奨学金をもらっている人など異なる価値観を持つ人たちが同じの学び舎にいることは、大きなチャンスだと思います。偏った価値観を押し付け合うのではなく、自分と異なった価値観を持つ人と会うことで、考え方を広げられると思います。大学で出会った友人とはお互い高め合える関係でいられて、とても良かったです。ですから、慶應の中でもネットワークをぜひ広げてほしいと思います。

## 編集後記

この記事を通して、物事を深くとらえ、考える能力を持つことの重要性を学びました。この能力はきっと私たちの生活に大きな変化、発見をもたらしてくれることでしょう。今回、このような深い感銘を得られる機会を持てたことに感謝しています。(濱田真優)

自分の時間を自由に使える大学生。だからこそ、はあちゅうさんのように自分のやりたいことをやり、多くの人と関わりたいと思いました。(金久保建)

考えるより行動に移すことが大切であり、かつ、同じ体験をしても考える量が多ければ多いほど自分の人生が豊かになるというはあちゅうさんの考え方にとっても鼓舞させられました。また、自由な時間が多いと言われる大学生だからこと、充実した生活を送るかは自分次第なのだとは改めて認識しました。(石川のどか)